

鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第26報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査 (平成2年度)

千羽 晋示*・安部 直哉**

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 26.

The Inquiry about the Distribution of Cranes
in western and central Japan

Shinji Chiba* and Naoya Abe**

序

昭和60年度から平成元年度まで5か年実施した第1次「鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査」では、主として本州中部以西、四国、九州におけるツル類の渡来・生息状況に関するアンケート調査によって、これまでにない重要な知見が得られた(千羽・安部, 1987, 1988, 1989, 1990, 1991)。平成2年度から始まった第2次調査においても、第1次調査に続いて、これまでとほぼ同様のアンケート調査を行う計画である。

本報は平成2年度における上記のアンケート調査の結果をまとめたものである。このアンケート調査に協力くださった方々にお礼申し上げる。

調査方法

調査対象期間 1990年秋季のツル類の渡来期から翌1991年春季の渡去期まで(1990—1991年)。

調査対象地域 九州、四国、中国、近畿、中部地方と東北地方の一部とした。ただし、ナベヅル、マナヅルの主要な越冬地である鹿児島県出水地方と山口県熊毛町八代地方は除いた。

アンケート調査の内容 前年度と同じで、調査用紙の様式と内容は千羽・安部(1989)に示してある。本年度調査では、さらに、各回答者の居住地ならびに鹿児島県出水地方に渡来・生息するツル類の保護に関する意見を問い合わせた1項目を追加した。この項については、まとめて発表するほどの回答は得られなかったため、本報では記さなかった。

* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

** 神奈川県相模原市旭町22-21, 柳下荘, Asahi-cho 22-21, Sagamihara-shi, Kanagawa-ken

アンケート調査用紙の発送先 前述の地方に在住する日本鳥類保護連盟会員, 長崎県生物学会々員, そのほか鳥類研究者, 観察者に対して, 返信用封筒と切手を付けて調査用紙を送付した。調査依頼者は, 前年度の回答者ならびに前々年度の調査依頼者とした。さらに, 一部の地方のツル類の情報について, 上記の調査依頼者以外の数名の方々や新聞社にも問い合わせをして情報を集めた。

調 査 結 果

表 1. 県別回答者数

秋 田	6	三 重	15	徳 島	7
山 形	1	滋 賀	6	香 川	7
福 島	4	京 都	14	愛 媛	4
新 潟	22	大 阪	30	高 知	6
富 山	7	兵 庫	35	福 岡	29
石 川	8	奈 良	8	佐 賀	6
福 井	4	和 歌 山	5	長 崎	39
山 梨	5	鳥 取	3	熊 本	8
長 野	29	島 根	4	大 分	8
岐 阜	19	岡 山	3	宮 崎	7
静 岡	24	広 島	17	鹿 児 島	4
愛 知	52	山 口	4	沖 縄	2

調査用紙の回収結果

総計592名の方に問い合わせを行い, 452名の回答が得られ, 回収率は76%であった。各県別の回答者数を表1に示した。

表1に回答者数が示されているが, 渡来記録の項には出ていない県は, 本調査ならびに他の情報によっても, 1990—1991年期にはツル類の記録がなかった県である。

調査記録のまとめ方

各回答者からの記録のまとめ方と記述方法はこれまでの報文と同じ様式で統一し, 一部の記録には編著者の「注」を記した。

1990年秋期から1991年春期までの記録

富山県

クロヅル

(1)1991年3月12日, 12時30分頃。成鳥1羽。高岡市雨晴, 雨晴海岸。

石川県

(1)1990年12月3日, 14時頃。成鳥1羽。加賀郡片野町, 水田跡。西より飛来し東に飛去。

福井県

ナベヅル

(1)1991年1月6日，10時頃。成鳥1羽。三方市三方町鳥浜，湿田。

注：報告者（上木泰男氏）によるとこの個体は多分，亜成鳥であろうと記されている。1991年2月13日付，「福井新聞」によると，この個体は2月中旬現在，同地の鯉川河口付近に生息しているという。おそらく，この地域で越冬したのであろう。

長野県

ナベヅル

(1)1991年3月13日，17時50—51分。成鳥1羽。佐久市猿久保，畑のまばらな農耕地帯で休息。トビに追われて北方に飛去。

静岡県

マナヅル

(1)1990年11月25日。成鳥1羽。袋井市郊外一帯の水田跡地。前後1週間ぐらい同地域に生息したらしい。

島根県

マナヅル

(1)1990年11月13日，15時。幼鳥1羽。松江市浜佐田町の水田地帯で発見され，同所ならびに同市西谷町一帯の水田跡で越冬。1991年3月26日まで生息。

注：「山陰中央新聞」，「中国新聞」の記事では，この個体は「後頭部に茶色っぽい毛が残っているので，生後2年前後の若鳥らしい」と解説されているが，「中国新聞」に掲載されている写真では，1990年生まれの幼鳥であらう。

岡山県

種不明

(1)1991年2月12日，8時。3羽（幼成の記述なし）。赤穂市山陽町の水田跡。シラサギのなかに，ナベヅルらしい3羽がいたという。

注：この回答は，この個体がツルかどうか正確でない記録である。

広島県

ナベヅル

(1)1991年1月11日現在，幼鳥1羽。広島市安佐北区可部東，民家の多い，狭い水田跡で越冬中。2月半頃，田起こしが始まるまで同地で越冬し，飛去。

山口県

ナベヅル

(1)1990年1月20日，14時頃。1羽（幼成の記述なし）。岩国市門前川下流の浅瀬。

マナヅル

(1)1990年11月13日，10時頃。幼鳥1羽。宇部市厚南区西割，水田跡に発見される。この個体は，頭部より下10—15cmのところ曲っていて，1991年1月22日に保護される。衰弱がひどく，数日後に常盤鳥獣保護センターで死亡。

愛媛県

種不明

(1)1990年10月28日，10時16—18分。12羽。西宇和郡三崎町水尻（佐田岬半島の先端部上空を北から

南西に通過。

高知県

ナベヅルとマナヅル

- (1)沢田佳長氏によると、1990—1991年期には「渡来は合計5回、ナベヅル16羽、マナヅル2羽」の記録があるという。
- (2)1990年12月28日。マナヅル2羽。中村市。
- (3)1991年1月1日。マナヅル2羽。吾川郡春野町。
- (4)1991年2月5日。同町西畑。

注：(2), (3), (4)の記録は酒井登志丸氏の教示による。このマナヅル2羽は高知県内で越冬したのであろう。

福岡県

マナヅル

- (1)1990年11月7日, 15時30分。20羽。福岡市西区今津の上空を通過。
- (2)1990年12月30日, 8時頃。成鳥2羽。京都郡犀川町花熊, 今川沿いの水田跡。
- (3)1991年2月26日, 11時45分。1羽。北九州市小倉北区, 監島の上空を北へ。

種不明

- (1)1990年11月11日, 17時頃。120羽。福岡市早速区, 油山市民の森上空を西に通過。
- (2)1990年11月14日, 15時10分。14羽。福岡市西区今津の上空を通過。

佐賀県

ナベヅルとマナヅル

- (1)1991年2月23日, 夕方。約300羽(ナベヅルとマナヅル)。伊万里市木須町の水田跡に降りる。以後, 罫をさがすかのように, 時どき飛び立っては伊万里湾上空を回っていた。寒気団の影響で23日には佐賀市で降雪2cm。北帰行の途中, 天候悪化で同地に降りたようである。

注：上の記録は1991年2月24日付「朝日新聞」記事を参考にして記した。このツルのその後の動行に関する情報は得られなかった。

長崎県

長崎県の記録は, 1. 九州本島地域と2. 壱岐, 対馬地域に分けてまとめた。壱岐, 対馬地域に分けてまとめた。壱岐, 対馬地域については, 全記録を種にかかわらずに季節順に記した。なお, 対馬における記録の多くは, 佐護湊在住の山村辰美氏からいただいた回答を基にまとめたものである。

1. 九州本島地域

ナベヅル

- (1)1991年3月3日, 14時, 3羽。佐世保市石岳展望台上空, 低飛行高度で北西へ。
- (2)1991年3月17日, 14時20分から15時20分。3群約160羽。佐世保市内上空, 高度約380mを北西へ。

マナヅル

- (1)1991年2月17日。約30羽。松浦市御厨町狩原免の水田跡。
- (2)1991年2月25日, 13時20分過ぎより。約150羽。西海町横瀬方向から飛来し, 佐世保湾上を通り, 弓張岳, 愛宕山付近の上空を経て, 大野上空で約10分間旋回後, 松浦方向(北方)に飛去。高度約800m。

(3)1991年3月10日，夕方。15羽。松浦市御厨町狩原免の水田跡。

(4)1991年3月12日，朝。12羽。同上所。

種不明

(1)1990年10月19日，13時50分。13羽。長崎市矢の平，本河内町，英彦山の上空を南に。

(2)1990年11月30日，17—18時。20—30羽。長崎市鶴見台上空を南へ。

(3)1991年2月2日，11時。5羽。諫早市小野島町の水田跡。

(4)1991年2月24日，10時30分。約30羽。平戸市紐差上空を北へ。

(5)同月同日，11時頃。3群の計約200羽。長崎市深堀町上空を東南から北へ。

(6)1991年3月10日，11時15—25分。80—90羽。11時50—55分，40—50羽。長崎市弥生町唐八景上空を北西へ。

(7)同月同日，12時3—8分，40—50羽。長崎市田上町上空を北西へ。

(8)同月同日，11時20分。約100羽。11時45分，約60羽。長崎市稲田町上空を東から北西へ。

(9)同月同日，13時頃。約20羽。平戸市下中津町上空を北東へ。

(10)1991年3月13日，12時30分。50—60羽。西彼杵郡高島上空を南南東から北北西へ。

(11)1991年3月15日，12時。200—300羽。西彼杵郡野母崎町，樺島上空を南から北へ。

(12)1991年3月16日，8時30分。23羽。北松浦市田平。水田跡から飛び立ち，上空を旋回後に北東へ飛去。

(13)1991年3月18日，12時20—33分。80—90羽。長崎市弥生町上空を北西へ。

2. 壱岐，対馬地域

壱岐（いずれも種不明）

(1)1990年10月18日，16時頃。8羽。壱岐郡芦辺町上空（飛行高度が高い），北西へ。

(2)1991年2月25日，15時50分。約100羽。壱岐郡芦辺町深江田原上空を旋回中。2，3度旋回して北へ飛去。

(3)1991年3月14日，20時30分頃。壱岐郡郷ノ浦町里触の上空を南から北東に通過するツルの鳴声。

(4)1991年3月16日，10時頃。約40羽。壱岐郡勝本町上場上空を旋回して，西北西に飛去。

(5)1991年3月17日，21時頃。壱岐郡長峰本村触篠石の上空を南から北へ通過するツルの鳴声。

(6)1991年3月28日，15時頃。13羽。壱岐郡郷ノ浦町長峰本村触の上空。南西から来て東南東へ。

(7)同月同日，15時10分頃。13羽。郷ノ浦町長峰東触の上空。南から来て北東へ。

対馬（種不明ならびにナベヅルとマナヅル）。

(1)1990年10月15日，13時。40羽（種不明）。下県郡美津島町大船越上空。しばらく旋回して，隊列を整えて，対馬海峡上空を南南西に飛去。

(2)1990年11月16日，13時。約40羽（種不明）。下県郡厳原町神崎（対馬の最南端）の上空を南へ。

(3)1991年2月18日，8時頃。マナヅル15羽。上県郡上県町佐護の水田跡。前夜に飛来したと思われる。19日10時頃に韓国に向け渡る。

注：新聞記事によると，親子の3羽となっている。成鳥2羽と幼鳥1羽であろうか。

(4)1991年2月21日，8時。マナヅル15羽。上県町佐護の水田跡。同日の夕方には観察されず。北上したらしい。

(5)1991年2月25日，早朝より40羽（種不明）。上県町佐護の水田跡。人が近づき，9時に北へ飛去。

- (6)1991年2月25日, 18時過ぎ, 約400羽(大部分はマナヅル)。上県町佐護の水田跡に飛来。
1991年2月26日, 8時頃から10時頃までに, 韓国に向け渡る。
- (7)同月同日, 上県町田ノ浜の水田跡にも14羽(種不明)がおりていた。
- (8)同月同日, 18時過ぎから, 上県町佐護に多数のツル飛来。暗くて羽数不明。
- (9)1991年2月27日, 6時45分。ナベヅルとマナヅル。同上所の水田跡から約150羽以上が, 8時10分にも約150羽以上が, 2回に分かれて韓国に向け渡る。
- (10)1991年3月9日, 16時—21時0分。約20羽(種不明)。上県町佐護と田ノ浜の間を行き来したらしく, 佐護には19時0分頃と21時0分頃に計3回飛来。
- (11)同月同日, 16時頃, 約40羽(大部分がナベヅル)。佐護の水田跡に降りようとしたが, 田ノ浜方向に飛去。同夜間に佐護に飛来。翌3月10日, 6時半頃, 韓国に向け渡る。
- (12)1991年3月11日, 14時頃。33羽(種不明)。上県町佐護の水田跡に降りる。人が近づき過ぎて舞い上り, そのまま韓国方向に渡去。
- (13)1991年3月18日, 8時30分。マナヅル11羽。上県町佐護の水田跡に降りている。このツルに給餌した際に, 舞い上り, そのまま韓国に向け渡る。
- (14)同月同日, 17時頃。ナベヅル約70羽。上県町佐護の水田跡。
同月同日, 18時頃。ナベヅル約80羽, 同上所に飛来したが, ツルを見に人が入ったため, 降りず。同日夜間, 上県町佐須奈, 上対馬町泉豊などでも上空でツルの鳴声があったという情報があり, 夜間にかなり多数のツルが佐護の水田跡に降りたようである。
翌3月19日, 朝, 佐護の水田跡にはナベヅル8羽。同日の早朝に, 他の多数のツルは渡ったのであろう。
- (15)1991年4月18日, 8時10分。マナヅル1羽。上県町佐護の水田跡から舞い上り, 旋回し高度をとって韓国に向け渡る。前日は嵐であった。

熊本県

ナベヅル

- (1)1990年10月17日, 13時15分。19羽。本渡市本町, 下河内の上空を南へ。
(2)1990年11月9日, 13時30分。4羽。本渡市本渡町山口の上空を南へ。
(3)1991年3月12日, 日中。約200羽。天草郡河浦町上空を南へ。
(4)1991年3月29日, 日中。約60羽。同上所の上空を北へ。

注:(3)の記録は, 北帰行の途中で, 出水に引き返すものか, 同地上空付近で再度北上するものであろう。

マナヅル

- (1)1990年10月25日, 朝。14羽。下益城郡富合町蔬江の水田跡に飛来。しばらくここで採食していたが, 野犬に驚いて11時頃飛び立ち, 西南へ。
(2)1991年3月1日, 15時。幼鳥1羽。熊本市美登里町の水田跡。
(3)1991年3月10日, 14時。4羽(1家族と思われる成鳥2羽と幼鳥2羽)。天草郡河浦町の水田跡と湿地帯。

ナベヅルおよびマナヅル

- (1)1991年3月3日, 11時。ナベヅルとマナヅルの3群約100羽。天草郡天草町高浜上空を北へ。

種不明

- (1)1991年2月15日, 16時。18羽。熊本市田迎町上空を東から西へ。
- (2)1991年3月18日, 日中。約80羽。天草郡河浦町上空を北へ。

鹿児島県

マナヅル

- (1)1990年11月24日, 11時。成鳥2羽。始良郡始良町別府川河口の砂州に。

結 び

1. 本年度のアンケート調査では、富山、石川、福井、長野、静岡、島根、岡山、広島、山口、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島県の各県からツル類の記録が得られた。
2. 富山県における1991年3月12日のクロヅル成鳥1羽の記録は、特異なものであった。なぜなら、1990—1991年期には、出水地方には2羽のクロヅルが越冬し、八代地方にはクロヅルは1羽も越冬せず、また、筆者の知る限り、本冬期には国内ではクロヅルの越冬例は出水地方以外にはなく、出水地方で越冬したクロヅルが渡去したのは、又野末春氏によると1991年3月15日に1羽、3月18日1羽であったからである。富山県におけるこのクロヅルは中国大陸で越冬したものが、春の渡りの途中で日本に迷行したものかもしれない。
3. 富山県において1990年12月3日に記録されているナベヅル成鳥1羽と福井県で越冬したナベヅル成鳥1羽は同じ個体かもしれない。
4. 上述の福井県のナベヅル成鳥1羽のほか、広島県でナベヅル幼鳥1羽、島根県でマナヅル幼鳥1羽が越冬した。
5. 本年期(1990—1991年期)の出水地方におけるツル類の初渡来は、1990年10月15日にマナヅル17羽、ナベヅルの初渡来は10月18日の2羽であった。そして、10月18日にはマナヅルは計71羽に増え、10月19日にはマナヅルは245羽に、ナベヅルは10羽に増加した。
一方、八代地方においては、1990年11月4日に4羽のナベヅルが初渡来し、5日には21羽に増加している(以上の記録は、又野末春氏による観察と「ナベヅル便り、No.5(1991)」による。
本年度アンケート調査による最も早いツルの記録は、長崎県対馬の項の(1)1990年10月15日、種不明の40羽、熊本県のナベヅルの項の(1)1990年10月17日の19羽であった。これらのツル類は、出水地方に10月15—19日に到着した個体の一部と推察される。
6. 渡去期の各地における多くの記録のうち、特に壱岐、対馬の記録は、出水地方における渡去記録とあわせて検討するときわめて興味深い。これらの記録については前報(千羽・安部, 1991)でもふれたように、過去の資料とあわせて、別に報告する予定である。

引用文献

- 千羽晋示・安部直哉. 1987. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第2報. ツル類の生息状況に関するアンケート調査(昭和60年度). 自然教育園報告, 18:23-31.
- ・———. 1988. 同上 第7報. 同上(昭和61年度). 同上報告, 19:31-40.
- ・———. 1989. 同上 第16報. 同上(昭和62年度). 同上報告, 20:41-48.
- ・———. 1990. 同上 第23報. 同上(昭和63年度). 同上報告, 21:77-82.
- ・———. 1991. 同上 第24報. 同上(平成元年度). 同上報告, 22:37-42.
- 又野末春氏から安部直哉宛私信.
- 八代のツルを愛する会. 1991. 「ナベヅル便り」No.5.

1989年秋期から1990年春期(1989-90年期)の記録補遺

宮崎県

1990年2月26日より約1週間。ナベヅル成鳥1羽。南那珂郡南郷町中村の水田跡。

長崎県

1990年3月22日, 11時30-45分。種不明の第1群約90羽, 長崎市唐八景上空を北西へ。種不明の第2群約80羽, 同じく第3群約40羽, 長崎市弥生町上空を北西へ。